

## ペンタス バタフライ・シリーズ

### 7色の充実した花色を取りそろえた、F<sub>1</sub>ハイブリッド品種

■ バタフライ・シリーズは、最近少し増えてきましたが、F<sub>1</sub>品種としてはじめてマーケットに投入されたペンタスです。花色も現在では基本色を中心に8色へと増えました。大輪花を支える株はストレスに強く、とくに定植された環境への適応力の高さは、F<sub>1</sub>品種としての特性が最大限にまでいかされています。そのため、米国ではこのペンタスを、これまでのように暖地(南部)を中心とした販売だけでなく、北部の生産者へも自信をもって提供されています

■ バタフライ・シリーズは旺盛に分枝をのびし、バランスのよい株をつくっていきます。仕立て方は、10cmポットから欲しい25cmくらいの大鉢まで、多様な出荷スタイルを実現できる品種です

■ バタフライ・シリーズは、従来の市場に出回っているペンタスよりも株質が旺盛で、またF<sub>1</sub>種なので揃いもよく、広い地域においての栽培を可能にしています。10cmポットで育てると、従来品種より約2割も旺盛な株張りを見せます

■ バタフライ・シリーズは、花壇に植えつけることでさらにその優れた特性がわかります。定植後約4週で、株は通常の固定種の2倍へと育ち、最終的には4、5倍の株張りを見せます。エンドユーザー(消費者)のための効用を最大限に高め、美しく生育旺盛な花苗を提供します

■ 「バタフライ」というネーミングは、咲いた花にハミングバードや蝶を呼び集める花...から来ています。実際、米国の庭園では、その花序径7cmの大きく目立つ花序にハミングバードがよく寄ってきます。

■ バタフライ・シリーズは、ペレット種子のみの販売です

■ 花色は、ブラッシュ、ディープピンク、ディープローズ、ラベンダーシェード、ライトラベンダー(imp.)、ピンク、レッド、ホワイトを取りそろえています

#### プラグ生産ステージ

本品種の学名: *Pentas lanceolata*

種子粒数: 1,125粒/グラム。ペレット種子のみの供給

#### プラグトレイ・サイズ

300後半から400前半が最も生産管理しやすいプラグトレイのサイズです

#### 播種

水はけがよく、新しく衛生的な培地を使いましょう。土壌 pH6.5-6.8、電気伝導度(EC値)\*0.75mS/cm前後が適しています。覆土は必要ありません

#### 温度管理

発芽: 25-26°C

子葉展開後: 20-22°C

本葉展開後: 18-20°C

その後のプラグステージでは15-18°Cが最も好ましいので、この温度域を維持しましょう

#### 照度管理

発芽揃いを促し、質の高い苗に仕上げるには100-1,000ルクスを維持しましょう。ペンタスは好光性のため、芽切り後はすぐに明るい場所へ移動しましょう。これは順調な苗生産を助長し、徒長を防ぐことにつながります。発芽後は照度を10,000-30,000ルクス上げ、54,000ルクスを限度としましょう

#### 水分管理

子葉展開までは相対湿度100%を維持します。ただしトレイには水滴が飽和しすぎないようにします。プラグの成熟にともない、葉に病気が入らないよう50%まで落とします

#### 肥料

(幼根の)が張り出してから15-0-15あるいは15-5-15の肥料を50ppm(N)与えましょう。発育が遅いと感ずる場合は2回に一度の割合で20-10-20に切り替えます。ステージ3になってから100-150ppmに上げて、プラグの生育を促します。EC値を1.0-1.5 mS/cmに調整し、土壌pHが6を下回らないようにしましょう。pHが低下しないよう、適宜、硝酸カルシウムを含む肥料を与えるようにします

#### 矮化処理剤(PGR)

このステージでは薬剤に頼る前に、空調環境や肥料設計、または水を抑えて、植物の生長を制御するように心がけましょう。またアンモニア態窒素を含む肥料は徒長しやすくなります。米国ではDIF(昼・夜間温度差による生長制御方法)による効果が認められています。薬剤の場合、播種後5-6週目にサイコセル500ppmの葉面散布で効果が確認されています

#### ポット上げから出荷まで

##### ポットサイズ

回転率を考慮すると、10cmから15cmくらいが適当です。10cmだと1本、15cmで1、2本植えが目安

#### 培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を使いましょう土壌 pH6.5-6.8、電気伝導度(EC値)\*0.75mS/cm前後が適しています。pHが6.0を下回ると生理障害によって葉の縁が変色し、生育が停止するので注意しましょう

## 温度管理

バタフライ・シリーズの生産では、夜温 17-18°C、昼間温 22-24°C以上を維持しましょう

## 照度管理

コンパクトに仕上げるため、十分に日を当てて管理することを推奨します。ペントスは耐暑性のある植物です

## 水分管理

葉に病気が入らないよう、バタフライ・シリーズの生産は湿度の低い環境で行いましょう

## かん水

過剰かん水や極度の乾燥は植物にストレスを与え、葉の変色やネクロシスを誘発します

## 肥料

ペントスは肥料食いの植物です。毎回かん水時に 15-0-15、あるいは 15-5-15 の肥料を 150-200ppm 与えます。葉の生長を見ながら、20-10-20 を与えることも可能です。EC 値\*を 1.0 mS/cm 前後に維持しましょう

## 矮化処理剤(PGR)

生長制御については、空調環境の整備などハウスの環境改善だけでも丈の調節には効果があり、またリンやアンモニア態窒素を控えることでも、徒長を抑えることが可能です。ペントスは、DIF(昼・夜間温度差による生長制御方法) ことでもよく反応する植物としても知られています。矮化剤を使った処理では、サイコセル 1,000-1,500ppm かボンザイ 6ppm を、株に蕾が付き始めたら灌注すると、丈の抑制に効果があります。さらに希釈倍率等を変えて関連試験を行いました。サイコセル 2,000ppm ではさらに高い効果が得られましたが、株や葉に特有の薬害が検出されたため、倍率については低い値から徐々に用いるようにしましょう

## 予想される一般的な生育障害

**害虫:** スリップス、ホワイトフライ、アブラムシ

### 病気および生理障害:

**根腐れ病:** 変色、根・茎の軟化。市販の軟腐病、根腐れ病に効果のある薬剤を(土壌に)投与してください

**リゾクトニア:** 黄褐色に変色。あるいは褐・黒色病斑が地際  
の茎に現れます。市販の軟腐病、根腐れ病に効果のある  
薬剤を(土壌に)投与してください

**ボトリティス:** 灰カビにも注意しなければなりません。この病気の抜本的対策は、まずハウスの空気循環を向上させることです。空気循環が改善されてから、ダコニールなどの薬剤を使用しましょう

**生理障害(鉄の過剰):** pH が 6.2 を下回ると葉の縁に葉焼のような症状が現れます。石灰を用いて pH を適正範囲に戻しましょう

**生理障害(鉄・マンガン毒):** pH が極端に下がると、鉄・マンガン毒による生理障害を引き起こし、葉上に褐色・黄褐色病斑が現れます。その場合 15-0-15 のようなリンを含まない肥料に切り替えましょう。症状が改善されない時や、pH が依然 6.0 以下の場合には石灰の水和液を与えます

**注意点:** 土壌 pH を上げるために石灰の水和液を作る場合、水 10 リットルに石灰 1g が目安です。これを土壌注入しましょう。土壌のアンモニア態のレベルが高い場合(10ppm 以上)は石灰の注入は行わないで下さい

**生理障害(マグネシウム欠乏):** 肥料中にマグネシウムが含まれていない場合、開花期の頃にマグネシウム欠乏による生理障害(葉の変色と変形)が現れます。肥料設計にあたってはマグネシウムを含んだ肥料を用いましょう

**開花不良:** 温度が低いと開花が揃わず、また開花の遅れが生じることがあるので、適温域を維持しましょう

## 栽培スケジュール

### 播種からポット上げ:

8-10 週(392/406 穴トレイ使用)

### ポット上げから出荷(10cm 前後):

10-12 週(寒冷地-冬場に 0°C 以下の日や降霜が多い地域)  
8-10 週(暖地-冬場に凍らず降雪も少ない地域)

バタフライ・シリーズは、十分な日照と気温、そして長日という夏季の好条件下で、最短で播種後 12、13 週で出荷できます

## 花壇内での手入れについて

バタフライ・シリーズは、日当たりのよい場所を好みます。花壇への定植は米国北部のように気温が低めの地域では 25-30cm の株間で、南部のように温度がとれる地域ではやや広く 35-40cm の株間が一応の目安になります。十分な水と、市販の汎用タイプの肥料を定期的に与えます。肥料の項目でも記したように、ペントスは肥料食いの植物のため、肥料切れをおこさないように注意を払いましょう

\*: EC 値(電気伝導度)の数値は、北アメリカのピート主体の培地が算出要素になっているので、日本国内では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed

2005年9月改定

PanAmerican Seed Co.

622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698  
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 [www.panamseed.com](http://www.panamseed.com)

©2000 Ball Horticultural Company Printed in USA

Originally issued in USA, and under permission translated/revised into Japanese in 2005. Printed in Japan